



第2回 スクール・リマ

気候変動に関するこれまでの 国際交渉について

WWFジャパン
気候変動・エネルギーグループ リーダー
山岸 尚之

2014年5月28日（水）
WWFジャパン会議室

© Global Warming Images / WWF-Canon



今日の概要

1. これまでの過程
2. 争点
3. ADP2.4の結果について
4. グリーン気候基金（GCF）

1. これまでの過程

- コペンハーゲン以降



コペンハーゲン以降の国際合意

2010

カンクン合意 (COP16・COP/MOP6)

- コペンハーゲン合意に各国が提出した自主的な削減目標や削減行動を国連文書に登録

2011

ダーバン合意 (COP17・COP/MOP7)

- 京都議定書の第2約束期間の設立を決定
- カンクン合意の実施 (MRVの仕組み等)
- グリーン気候基金 (GCF) の設立
- ダーバン・プラットフォームの設立を決定



ADP

Workstream 1

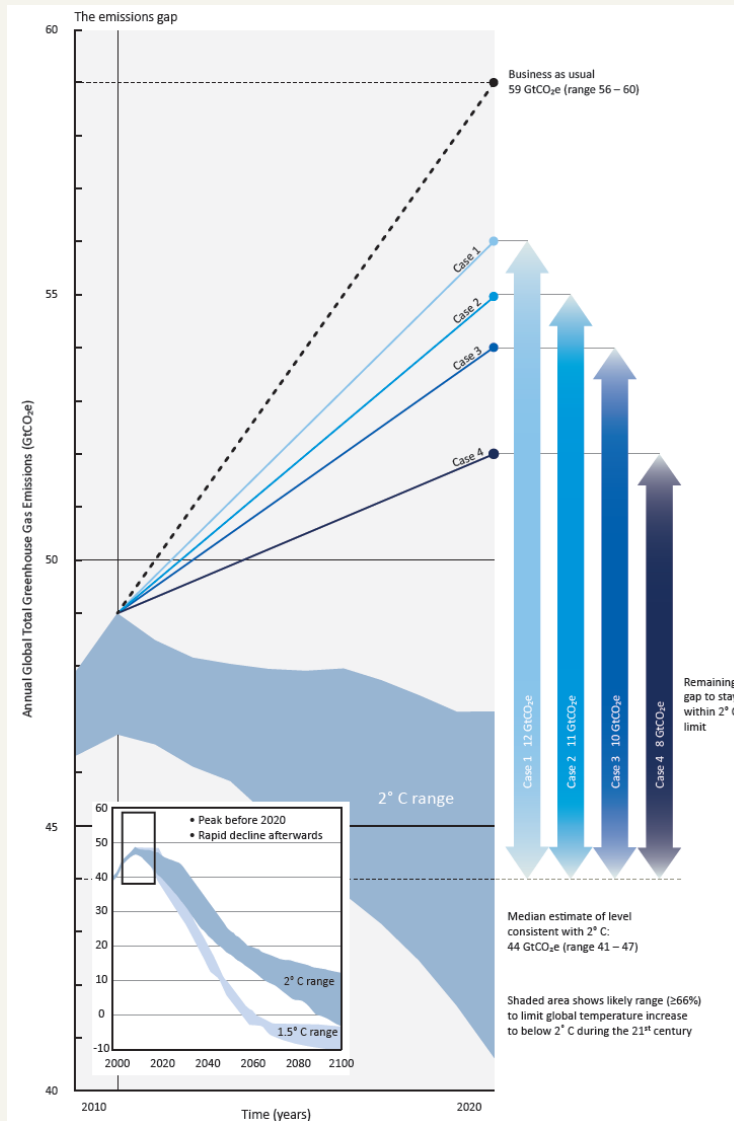
2020年以降の枠組みを2015年までに合意。

Workstream 2

2020年までの野心の引き上げ。



野心 (ambition) の引き上げ？



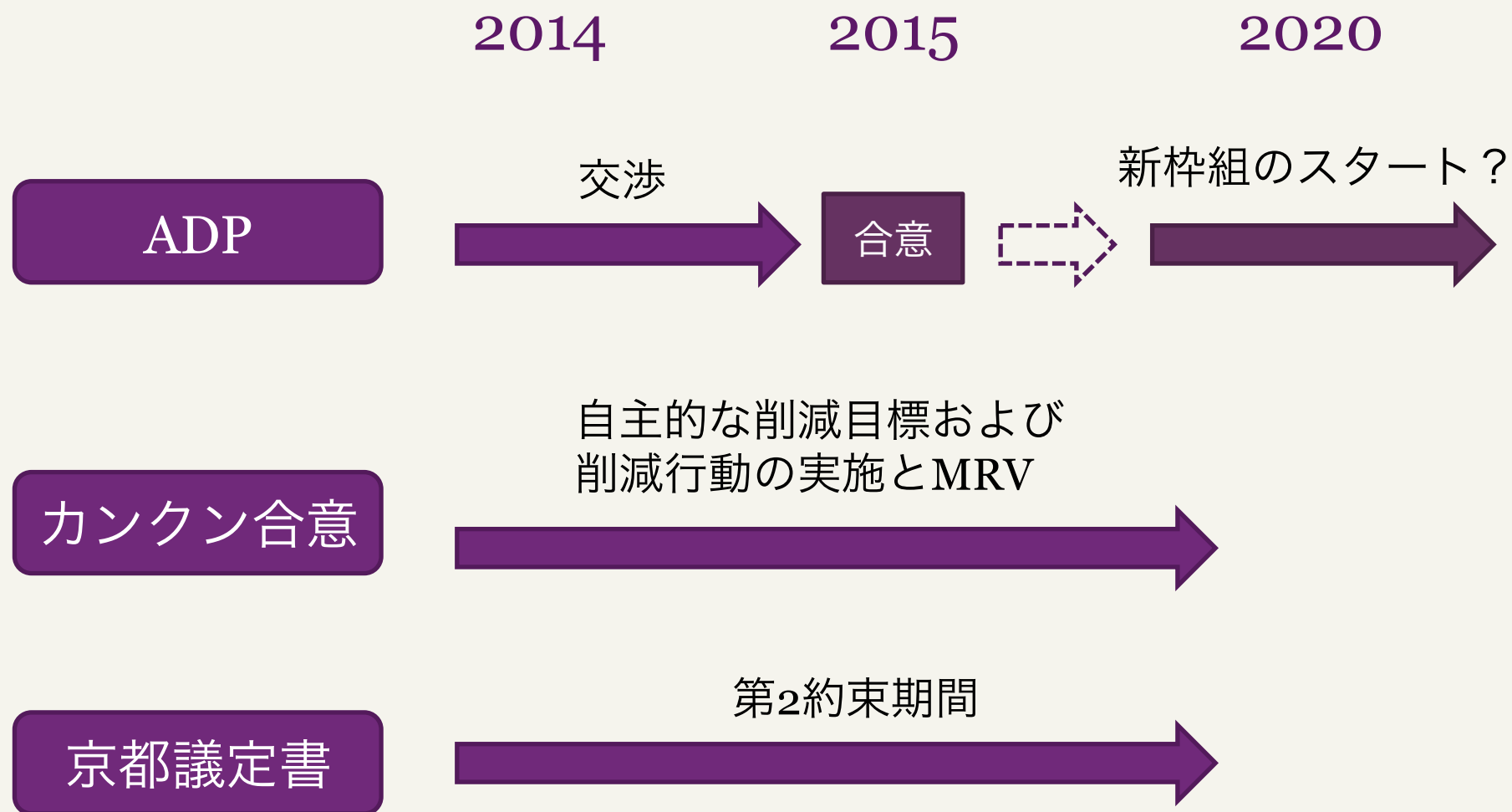
80～120億トン

- 2020年時点で「2°C未満に必要な削減量」と「各国が誓約している削減量」との乖離 (gap) が、80～120億トン (CO₂換算) になると試算。
- しかし、この乖離をうめることはまだ可能とも結論づけている。

UNEP (2013) *The Emission Gap Report 2013*. UNEP.



現在～2020年までの国際体制





ダーバン以降の議論

2012

ドーハ気候ゲートウェイ (COP18・COP/MOP8)

- 京都議定書の第2約束期間を含む改正案の採択
- 2015年合意へ向けたおおまかなスケジュール
 - 2014年12月のCOPにおいて2015年合意の「要素」(elements)を検討する。
 - 2015年5月までに交渉テキストを準備。

2013

ワルシャワ合意 (COP19・COP/MOP9)

- 各国は“Intended Nationally Determined Contributions” (NDCs) (国別目標案) を提出する。準備のある国は、2015年3月までに。
- 「損失と被害 (loss and damage)」に関する国際メカニズムの設立。
- 削減ポテンシャルの高い対策に関する専門家会合 (Technical Expert Meetings)の設立。



今後の交渉の概観

2014年9月

潘基文国連事務総長による
国連気候変動特別首脳会議

2014年12月

COP20・COP/MOP10（ペルー・リマ）

➡ 2015年合意の「要素」（elements）
の合意？ 交渉テキスト？

2015年3月

各国が、新しい排出量削減目標（～2025／
2030）等を発表？

2015年5月

交渉テキスト？

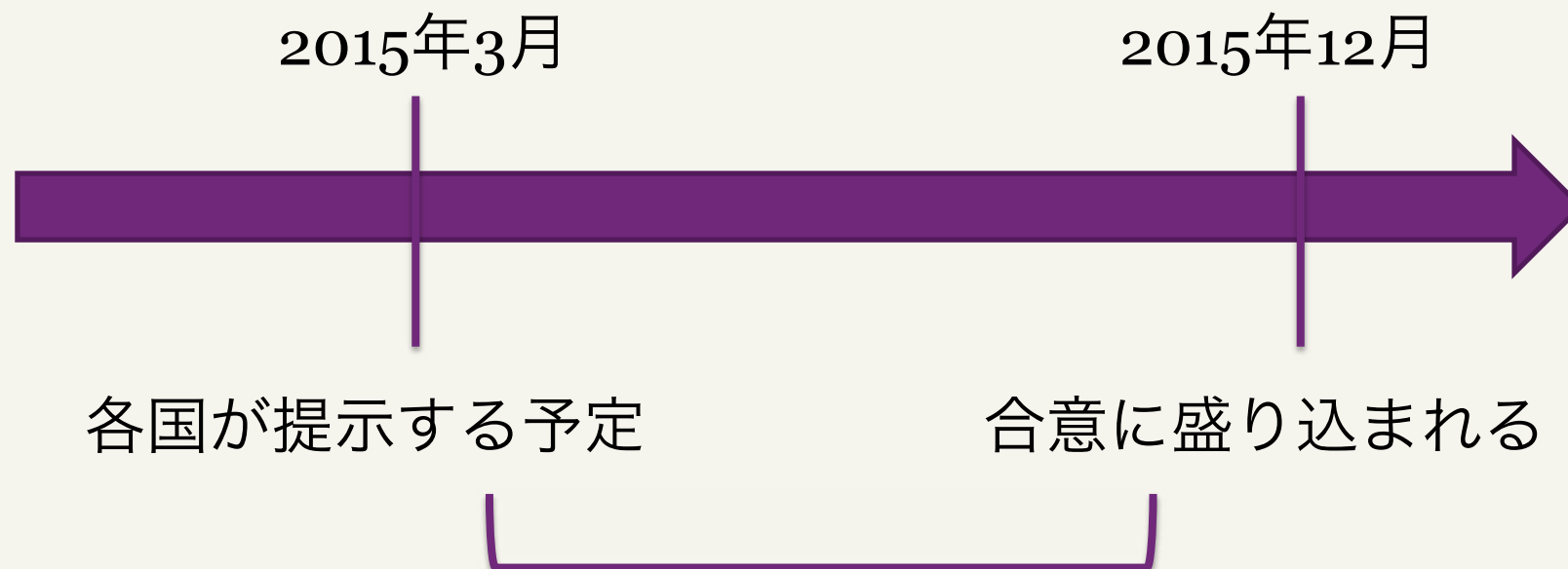
2015年12月

COP21・COP/MOP11（フランス・パリ）

➡ 2020年以降の新しい国際枠組みの合意



Nationally Determined Contributions (国別目標案)



事前協議 (ex ante consultation) / review の実施

NGO的視点

衡平性 (equity) と野心 (ambition) のチェック

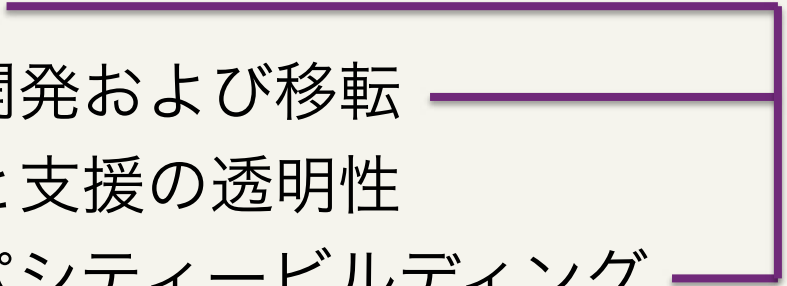
- ✓ NDCs を出すのは全ての国々 (先進国・途上国の区別はない)。
- ✓ NDCsの中身は決まっていない=緩和目標だけと決まったわけではない。



ダーバン合意・段落5の6項目

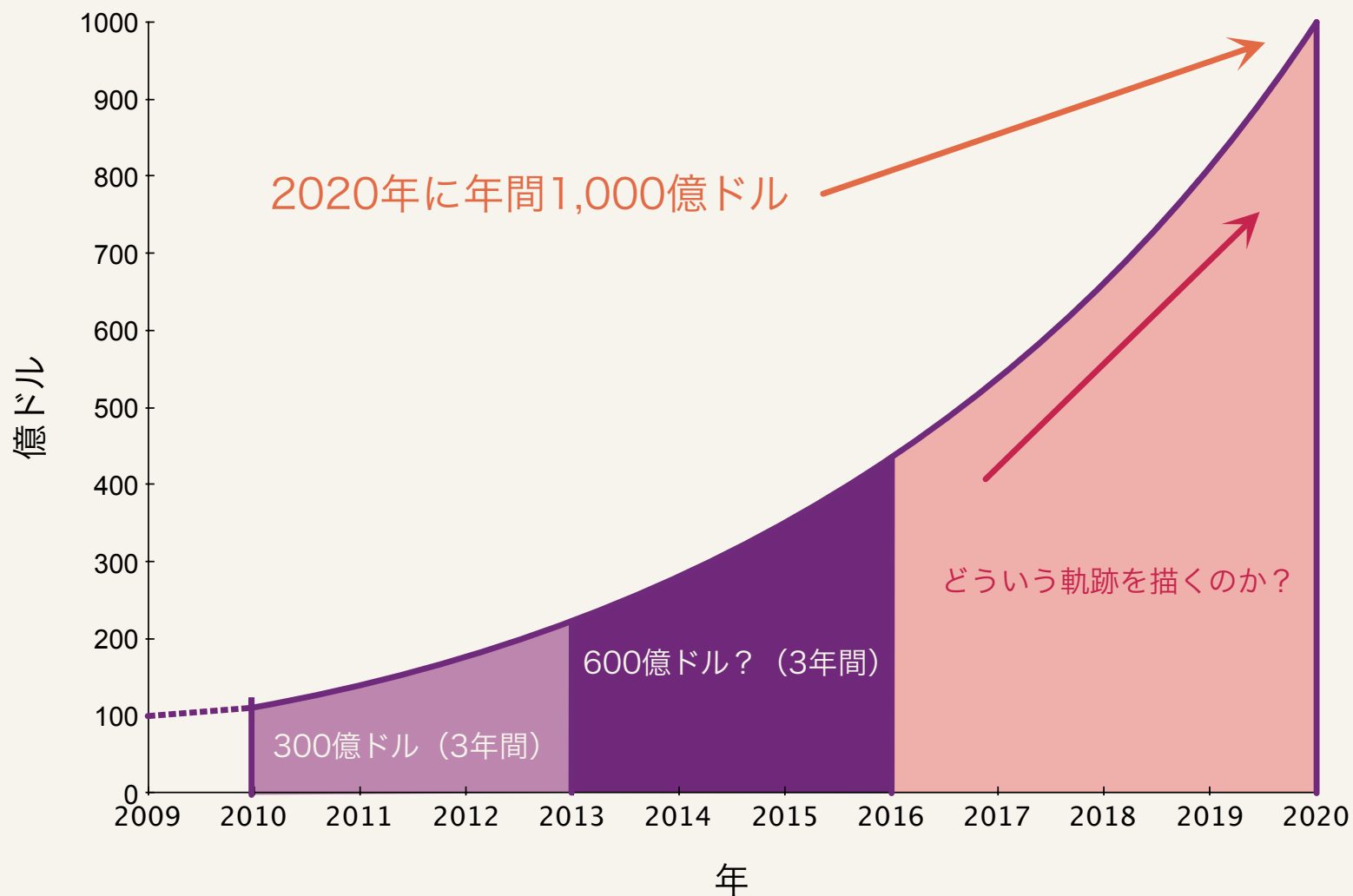
Decision 1/CP.17

“5. ... mitigation, adaptation, finance, technology development and transfer, transparency of action and support, and capacity-building,”

1. 緩和
 2. 適応
 3. 資金
 4. 技術開発および移転
 5. 行動と支援の透明性
 6. キャパシティービルディング
- 実施の手段
(MoI; means of implementation)
- 



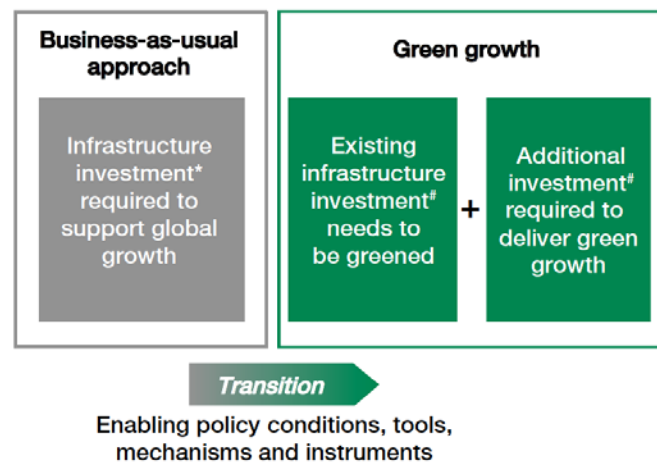
長期資金：1,000億ドルへの「道筋」





参考：気候資金はどれくらい必要か？

Figure ii: Conceptual assessment framework



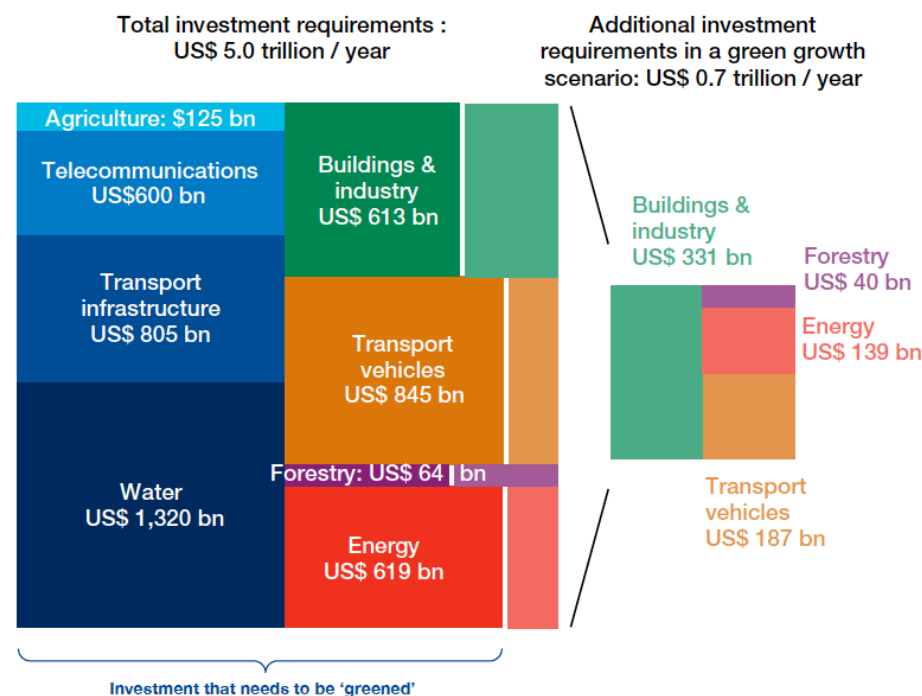
既定路線で必要とされる投資

5兆ドル／年（グリーン化が必要）

追加で必要とされる投資

7000億ドル／年

Figure iii: Total estimated investment requirements under business as usual and estimated additional costs under a 2°C scenario



Sources: OECD^{2,3}, IEA⁴, Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO)⁵, United Nations Environment Programme (UNEP)⁶

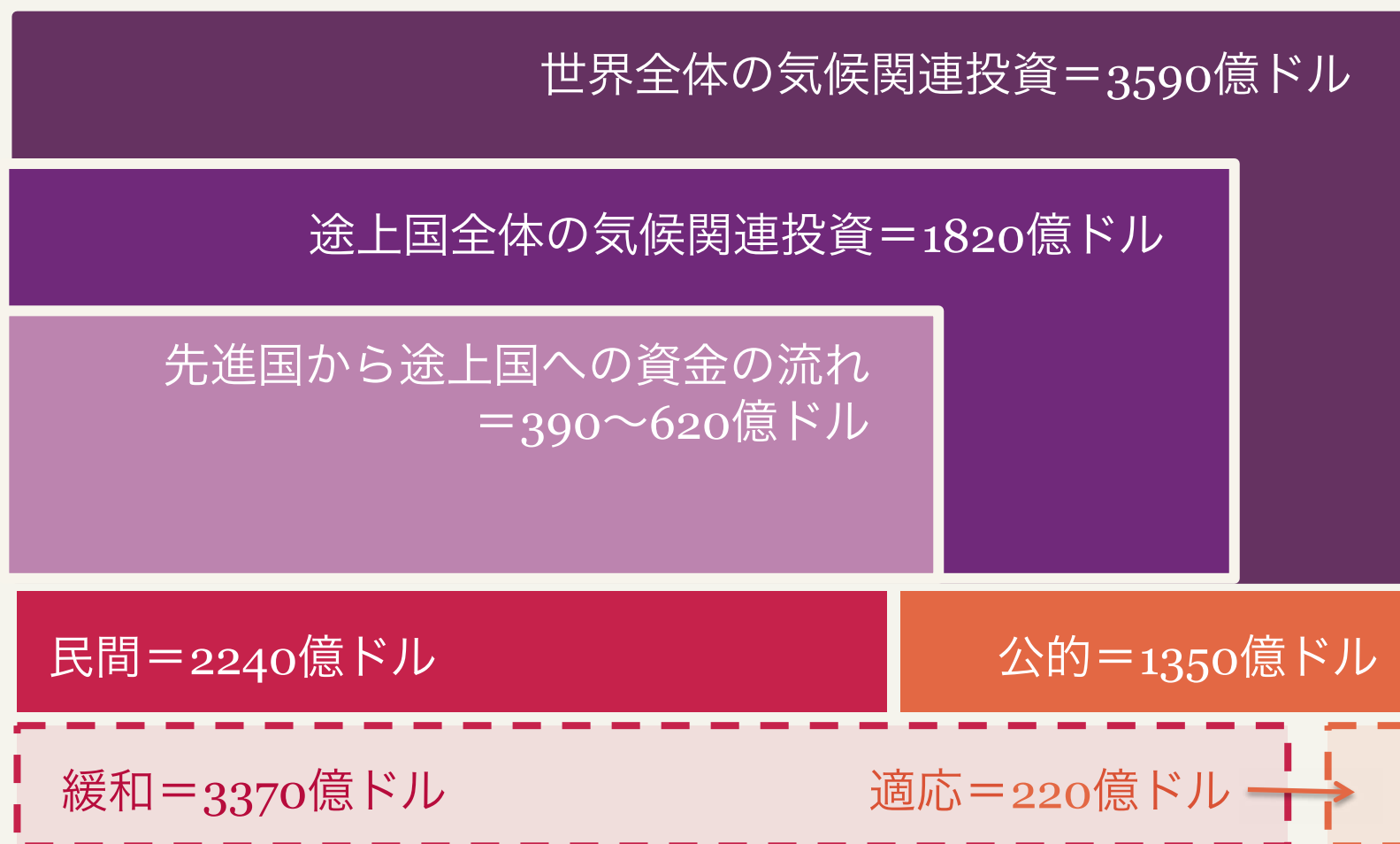
Note: All data converted to \$ 2010 equivalents

(出所) World Economic Forum (2013) *The Green Investment Report: The ways and means to unlock private finance for green growth*. World Economic Forum.



参考：今どれくらいの気候資金の流れがある？

2012年に関する試算



(出所) Climate Policy Initiative (2013) *The Global Landscape of Climate Finance 2013*. Climate Policy Initiative. より作成

2. 争点と交渉グループ

- 時に建設的に、時に非生産的な対立



主要な争点

NDCsの中身

- 緩和中心か？
- 適応・資金・技術等も含むか？

長期資金への道筋

- 「2020年1,000億ドル」？
- 民間資金中心か？
- 公的資金中心か？

新枠組みの法的性質

- 議定書？条約？

「共通だが差異のある責任」の解釈

- 附属書I国と非附属書I国の区別か？
- もっと違う解釈？

2020年目標

- どうやって「ギャップ」を埋める？
- 目標の引き上げ？

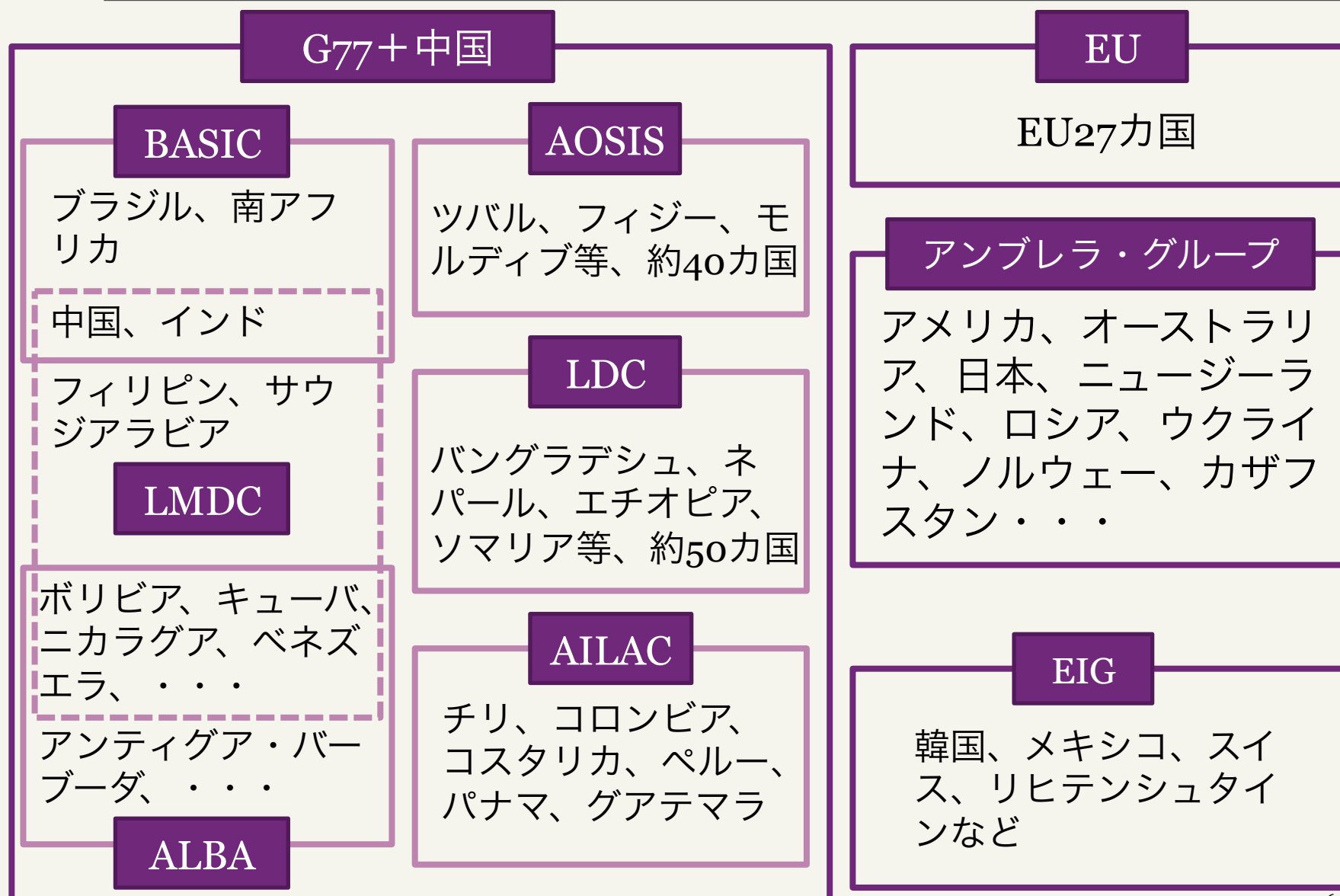
新枠組みの構成

- 緩和中心？
- 適応目標？
- 資金・技術・キャパビル支援も法的なものに？



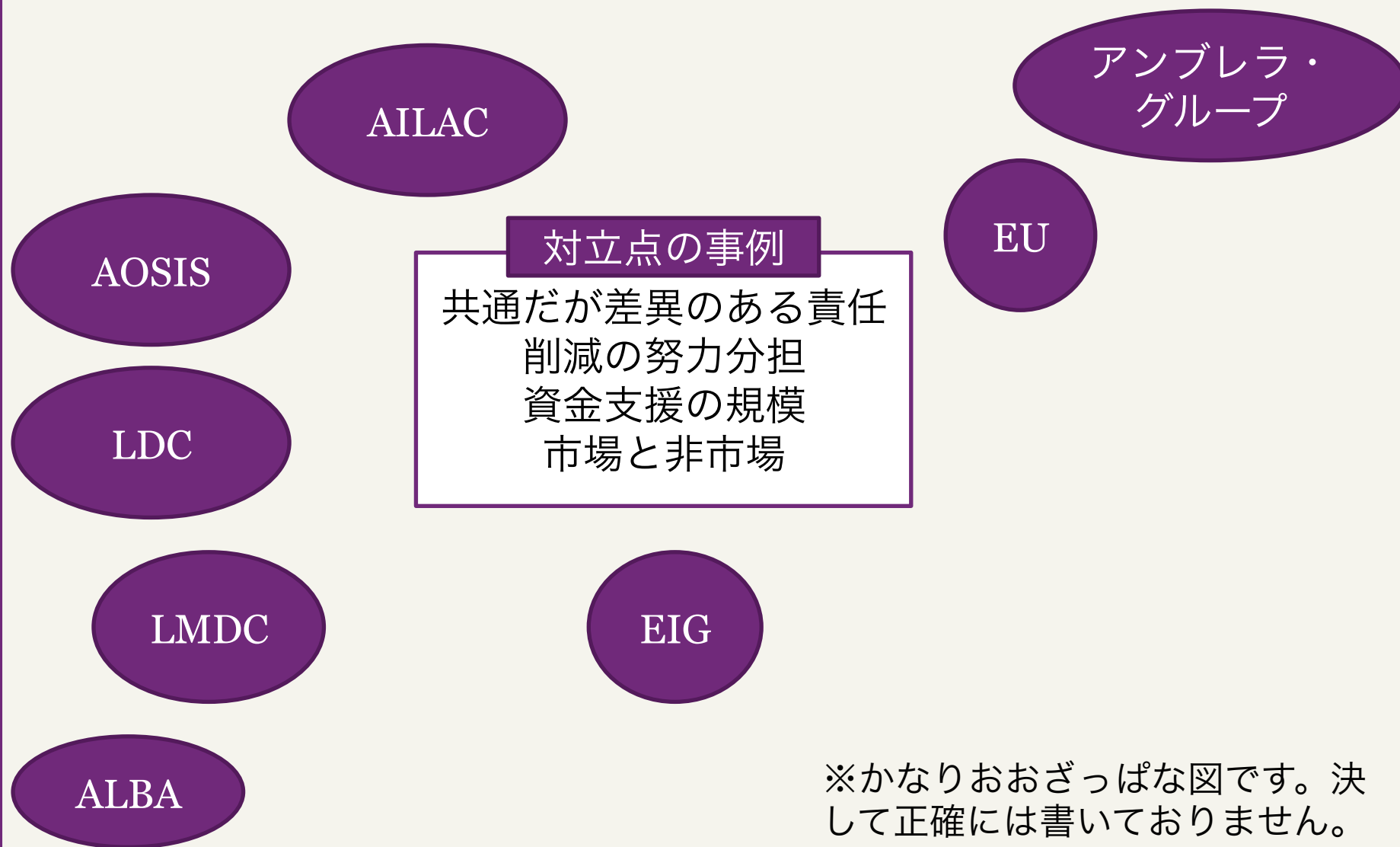
国々のグループ

※この図は網羅的ではありません。また、一部、メンバー国の重なりを反映できておりません。





なんとなくの立場の分布



※かなりおおざっぱな図です。決して正確には書いておりません。

3. ADP2.4の結果

– 2014年最初の会議の成果

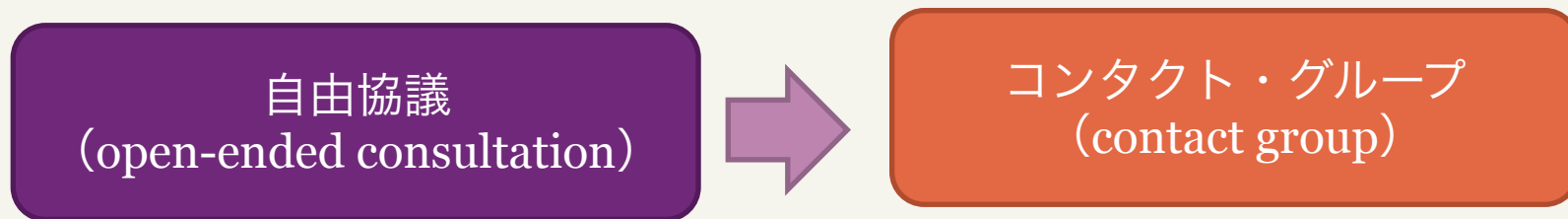


3つの成果？

- **コンタクト・グループの設立**
 - 公式な交渉へ？
- **2020年以降の目標案へ向けての議論の開始**
 - NDCsに何が入るのか？
- **「専門家会合」による国連気候変動枠組条約（UNFCCC）の新役割**
 - 「実施」促進の場に？



コンタクト・グループの設立



- ✓ 主に途上国が強く主張。
- ✓ 一般的には、「交渉テキスト」を作ることができるようになったと解釈。
- ✓ 交渉テキストに含まれる諸提案の出所（＝どの国が提案したのか）を明記することを途上国は強く主張。



NDCsには何が入るのか？

先進国

緩和（＋透明性確保）を中心にしたい



LMDCs

先進国と途上国の明確な区分
「緩和」だけではない

Developed countries	Developing countries
Contributions	
Commitments	Actions
1. Mitigation	{ 1. Adaptation (plus loss and damage)
2. Timely provision of finance to developing countries	{ 2. Mitigation
3. Timely provision of technology to developing countries	{ 3. Capacity building
4. Timely provision of capacity-building support to developing countries	{ 4. Sustainable development

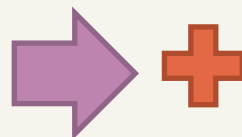




専門家会合（TEMS）の状況

UNFCCCの役割

国際ルール形成



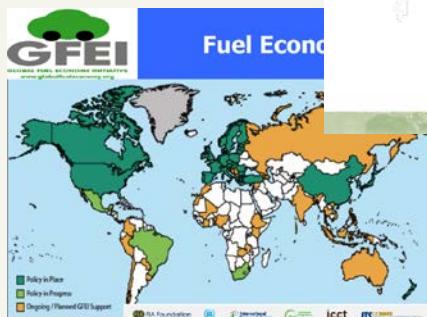
対策／イニシアティブ
実施支援

エネルギー効率改善分野

再生可能エネルギー分野

多くの国際イニシアティブの交流／資金支援のあり方／
ポテンシャルの再確認／具体的な課題の共有

GFEI



Inefficient incandescent lamps Phase-out (2014)



UNEP

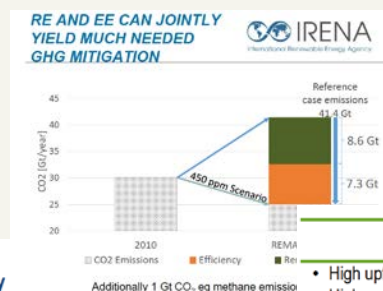
GEF

GEF leveraging private sector
investments in energy efficiency

- Case study of GEF/IFC CHUEE
- 2006, \$16.9 Mn GEF grant, \$200 Mn IFC loan for EE marketing, development and financing services
 - 2012, leveraged about \$800 Mn local bank loans for 170 plus EE/RE projects
 - Now, mitigates over 19 million tCO₂/Yr, = total annual emissions of Mongolia
 - CHUEE 3 is currently under implementation in China



IRENA



ケニア

Barriers/Challenges RE

- High upfront cost of project development/investments
- High exploration and drilling cost & risk for geothermal
- Long lead time for geothermal power development (5-8 years)
- High costs of technology transfer resulting slow domestication of technology manufacture and assembly
- Inadequate skilled renewable energy technicians and engineers
- Policy risks (political)
- Length of time for negotiations
- Poor access to RE sites

4. GCF（グリーン気候基金）

- GCFの運用化の条件



GCFが実際に運用化されるための必須要件

8つの必須要件 (essential requirements)

1. 基金および事務局の初期段階での構造
2. 基金の経済リスク管理・投資枠組
3. 初期段階での対象分野・格となる成果指標・成果管理の枠組み
4. 国・地域・国際組織（実施組織・中間組織）の認定手続き
5. 資金の初期配分に関わる方針および手続き
6. 初期段階の提案承認過程（プログラム／プロジェクト・ファンディングの基準を含む）
7. 緩和・適応分野および民間部門ファシリティに関する初期段階の運用様式
8. 基金の独立評価ユニットの独立十全性確保ユニット、独立苦情処理メカニズムのTOR

（出所） FCCC/CP/2013/6 (Report of the Board of the GCF to the COP)



- 2014年2月会合で6つに合意が完了。
- 5月会合で8つ全てに合意完了

＝ 各国による拠出の検討が始まる？



www.wwf.or.jp/re100